

2月10日(日)トークセッション開催のお知らせ

「“ふつうの人”は科学で定義できるのか？」

＜進化生物学編＞ 颯田葉子 × 熊谷晋一郎

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)では、2019年2月10日(日)に、トークセッション「“ふつうの人”は科学で定義できるのか？」＜進化生物学編＞を開催します。本イベントは、“ふつうの人”は定義できるのか？という問いに、最先端の科学から切り込む2回の連続企画で、2018年10月の＜ゲノム解析編＞に続き、2回目となります。

今回お招きするのは、ヒトの進化についてゲノムレベルから研究している進化生物学者の颯田葉子氏と、障害と現代社会をめぐる課題にとりくむ研究者であり、脳性麻痺の当事者でもある熊谷晋一郎氏です。

私たち生物は、世代を超えて遺伝子や性質を変化させていきます。生き残るのに有利な遺伝子は、多くの子孫に受け継がれることで個体数を増やし、その社会の多数派になりやすくなります。すると遺伝性の疾患になりやすい人は少数派になりそうですが、実際はそうとも限りません。たとえば現代人全体でみると、統合失調症を発症するリスクの高い型が多数派を占める遺伝子の存在が確認されています。颯田氏の研究グループは、ヒトの祖先が持っていたのもこの高リスク型であることを見出しました。このような場合、高リスク型を祖先から引き継いだ多数派が“ふつうの人”なのでしょう？

この回では、まず颯田氏よりヒトの進化について、最新の研究成果を交えてお話しいただきます。それを受けての熊谷氏との対談を通して、私たちの“ふつう”の根拠を問いながら、同時に“ふつう”と表裏一体をなす“障害”という概念をも問い直していきます。多様な人々が共生する社会の構築に向けて、先端科学の知見をベースに議論します。

■開催概要

タイトル トークセッション「“ふつうの人”は科学で定義できるのか？」＜進化生物学編＞

開催日時 2019年2月10日(日) 14:30～16:00

開催場所 日本科学未来館 5階 コ・スタジオ

参加費 入館料のみ

参加方法 日本科学未来館ホームページから事前申し込み(先着順)

<http://www.miraikan.jst.go.jp/event/1901161023818.html>

定員 50名

主催 日本科学未来館

※音声認識字幕によるコミュニケーション支援を行います。



颯田葉子氏

講師

颯田葉子氏 (総合研究大学院大学 先端科学研究科 教授)

1961年生まれ。1986年お茶の水女子大学大学院理学研究科修了。1990年理学博士(九州大学)。専門は、進化生理学、ゲノム進化学。とくに免疫に関する研究と、ヒトの進化に関する研究を展開している。

熊谷晋一郎氏 (東京大学 先端科学技術研究センター 准教授)

1977年生まれ。生後間もなく脳性麻痺により手足が不自由となる。東京大学大学院医学系研究科修了。博士(学術)。障害や病気のある人が自らの困難を研究し、周囲の人とわかちあうことで回復や共生へとつなげる「当事者研究」にとりくんでいる。



熊谷晋一郎氏

一般からのお問い合わせ先 日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 / FAX:03-3570-9150 URL: http://www.miraikan.jst.go.jp/	本件に関するお問い合わせ先 日本科学未来館 広報・普及課 広報・普及担当 Email: press@miraikan.jst.go.jp TEL:03-3570-9192 / FAX:03-3570-9150
---	---